

学校運営計画 (4月)			評価 (3月)	
学校運営方針	明るく豊かな心を持ち、英知に富み、たくましい精神力と強靱な体力を持った、力強く生き抜く若人の育成を目指す。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>確かな学力の醸成のため、教材や指導方法の工夫・改善を行い、ICTを活用したアクティブラーニング型授業の試みを行った。そのことを通して、生徒の学力向上につながる「わかる授業・考えさせる授業」の展開につながり主体的学習態度の育成ができた。また、家庭及び集団生活での基本的生活習慣の確立、部活動への積極的な加入促進と活動内容の充実による心身の調和のとれた発達に取り組んだ。その結果、出席状況や学習意欲の向上、生徒会活動や学校行事への意欲的な参加、部活動の活性化、進路目標達成の取り組みなどに、着実な成果をあげた。今後は、さらに教育活動を通じて、学習の大切さを分からせ、主体的な家庭学習習慣を身に付けさせる必要がある。</p> <p>創立40周年に向け、「鍛えよう、ほめよう、小郡高の教育力向上プロジェクト」(小郡高生を鍛えて、ほめて、可能性を伸ばす)をコンセプトに、生徒が抱える本質的な課題の解決に効果的な取組を実践し、学校の教育力を高め、生徒の力を伸ばすことをチーム学校として目指す。</p>	<p>学力・体力・豊かな心を培う調和のとれた教育を推進し、福岡県学校教育振興プラン「鍛えよう福岡メソッド」を進め、社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>「鍛えよう、ほめよう、小郡高の教育力向上プロジェクト」(小郡高生を鍛えて、ほめて、可能性を伸ばす)をコンセプトに、生徒が抱える本質的な課題の解決に効果的な取組を実践し、学校の教育力を高め、生徒の力を伸ばす。</p> <p>学習実態に応じた学習指導の工夫・改善を行い、わかる授業・考えさせる授業の展開により確かな学力の育成・定着と自立的学習態度を養う。言語活動の充実を教育活動全体で推進し、表現力・コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>規則正しい家庭生活習慣と、挨拶・掃除・容儀・時間厳守など集団生活を営む上での基本的生活習慣を確立させる。</p> <p>「文武不岐」の精神のもと、部活動への積極的な加入を促すとともに活動内容の充実を図り、心身の調和のとれた発達を促す。</p> <p>「Beingプラン」の充実を図り、自らの進路を選択し切り拓くことのできる生徒の育成を図る。</p>	A	
	<p>キャリア教育の意義を踏まえ、高い志を持たせるとともに少し難しい目標や課題を生徒個々に設定させ、チャレンジしながら自己の可能性を伸ばし、希望進路の実現を図る。</p>	<p>進路ガイダンスや学校説明会の実施、オープンキャンパスや出前講義の活用により、幅広い選択肢を持たせ、志を高めさせる。</p> <p>個々の進路希望に応じた講座、各種のセミナー等を充実させ、学びに向かう姿勢の醸成と進路実現のための学力を向上させる。</p>		
	<p>部活動・生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図り、社会や地域のために貢献する意志と自他を尊重する豊かな心を育む。</p>	<p>各種行事において、リーダーシップを発揮する場を設け、リーダーの資質を育成する。</p> <p>校内外の清掃活動やボランティア活動を企画したり参加したりすることにより、望ましい勤労観や職業観を育成し社会に貢献する態度を養う。</p> <p>自他を大切にすることを養い、いじめ等のない安心して学べる環境を構築する。</p>		
	<p>広報活動を推進し、保護者や地域と協力して開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>中学校訪問、進路相談事業等において、組織的な広報活動を展開する。</p> <p>生徒の活躍や日常の教育活動等をきめ細かに発信し、地域からの信頼や理解を得る</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
学習指導	「わかる」「考えさせる」授業の実現に向けて授業改革に取り組み、生徒の学習意欲の向上、家庭学習の充実、学力の向上を図る	<p>研修部と連携して、研究授業や授業研究を組織的にを行い、教員の授業力の向上に努める。</p> <p>アクティブ・ラーニングを全ての教科・科目に取り入れることができるように、研修や相互参観等の取り組みを充実させる。</p> <p>ICTを使用した授業をさらに広めるため、情報科と連携して電子黒板やプロジェクタの整備や使用方法等について周知を高め</p> <p>家庭学習時間調査を行い、その結果について検証し、学年と連携して事後指導等によって学習時間の確保に努める。</p> <p>定期考査や校外模試等の成績について常に検証し、授業内容定着や到達度について、意識を高める工夫を行う。</p>	A A A A A	<p>・新学習指導要領を踏まえた授業の改善については、各種研修会や研究授業、公開授業等により進んできたと考えている。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業やICT、特に電子黒板を使用した授業が増えてきている。今後は、さらに授業内容を高めるような方法の研究などについて取り組む必要がある。</p> <p>・今後は授業や考査のレベルについての検討を行い、生徒の学力を伸ばすための方策について取り組み、また、評価の方法についても検討することが必要である。</p> <p>・さらに学習指導要領の改訂や大学入試改革についての確に情報提供をすることが重要である。今後も教務情報の発行や研修会・職員会議等を通じて周知徹底を図っていききたい。</p>
	各分掌、各教科・学年と連携し、キャリア教育や言語活動を中心とした教育活動を、学校全体として充実させる	<p>「入学から卒業までのキャリア教育計画」に従い、すべての教育活動について、系統的・組織的な取組となるような計画を立てる。</p> <p>授業及びその他の活動について、言語活動を重視した指導方法が行われるよう、各教科や各分掌に情報を提供し、連携する。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善について、周知と研究を行う。</p>	A A B	
	新学習指導要領を見据えた「社会に関わった教育課程」の実現に向けて、教育課程の見直し、検討を行う	<p>新学習指導要領や教育改革に関する情報を常に発信する。</p> <p>本校に適した教育課程について、現行の検証と改訂等についての検討を行う。</p> <p>成績処理や各種手続きに関して整理を行い、管理を行う。</p>	A B A	
生徒指導	生徒の自己指導能力を育成する	<p>日常の中で、時間厳守、整理整頓、校内美化、容儀、挨拶や言葉遣い等の実践的態度を身につけさせる。</p> <p>校内風紀の維持・向上を図るために、服装・頭髪検査を月1回実施する。</p> <p>家庭でのスマートフォンの使用については「1時間以内」かつ「22時まで」の指導を行い睡眠時間や家庭学習を保持させる。</p>	A A B	<p>・服装・頭髪指導を計画的に実施したこともあり良好であった。挨拶(静止礼)については継続して指導する。</p> <p>・ネットいじめ防止講話や女子防犯教育では内容を充実させることができた。今後も外部講師の積極的な活用に加え、マナー指導の充実を図っていききたい。</p> <p>・部活動加入率については、来年度も80%以上を目標に取り組んでいく。また、積極的にボランティアへ参加する手立てや部活動生による校外清掃活動等を企画し、人間性の育成を目指していききたい。</p>
	学校安全の充実に努め、安全について主体的に行動する態度を育成する	<p>学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行い、保健環境課と連携していじめの未然防止・早期発見・適切な措置に努める。</p> <p>諸犯罪に適切に対応できる態度を育成するため、薬物乱用防止教育・暴力団排除教育・女子防犯研修等を実施する。</p> <p>事故等の未然防止に向けた実践的態度の育成や意識の向上に向けて交通安全教室や乗車マナー指導等を実施する。</p>	A A B	
	生徒会活動や部活動の活性化を図り、心身の調和のとれた発達を促す	<p>集団の一員としての自覚や社会性の伸長を図るために、生徒会活動で役割や責任を与え、貢献的に活動させる。</p> <p>部活動加入率80%を達成するために新入生仮入部期間等を充実させ、安全指導・安全管理を徹底して実績を高める。</p> <p>望ましい勤労観や職業観の育成のために、ボランティア活動への参加を促進する。</p>	A B A	
進路指導	各分掌、学年との連携した包括的なキャリア教育の推進	<p>各学校行事、学年行事の実施に際し、キャリア教育の観点を取り入れた行事となるよう、各分掌、学年と連携し取り組む。</p> <p>高大接続改革に向けて、具体的な取り組みにつながる進路情報を、職員、生徒に発信する。</p> <p>各分掌、各学年と連携し、自己管理手帳を効果的に活用し、生徒の自己管理能力の伸長を図る。</p> <p>生徒のインターンシップや校外の様々な研修への参加を積極的に勧め、職業観やリーダーシップを高める。</p> <p>各学年と連携して、大学説明会や公務員ガイダンス等を校内で実施し、生徒の進路意識を高める。</p>	A A A B A	<p>・キャリア教育に関しては、自己管理手帳の効果的な活用方法を提示し、自己管理能力の向上に努める。具体的には、ガイダンスの実施、二者面談等での助言を充実させる。</p> <p>・高大接続改革に対する取り組みとしては、総合的な学習の時間において生徒は課題研究及び発表を行い、これらも含めたポートフォリオを作成する。</p> <p>・外部模擬試験については、1年生のGTECを、高大接続改革に伴って導入される外部試験に沿ったものに変更する。</p> <p>・生徒向けの校外研修活動は、各学年に積極的に参加を促すことにより、生徒のコミュニケーション能力や、課題解決能力、プレゼンテーション能力の向上につなげる。</p>
	志の育成に向けての合的な学習の時間の充実	<p>生徒の進路意識向上を図るため、NIEや国際理解教育、進路ガイダンス等を、総合的な学習の時間で行う。</p> <p>各学年と連携し、マナー講演会や小論文ガイダンス等を実施し、学年に応じたキャリア教育活動を実施する。</p> <p>生徒の進路目標実現に対する意識を高めるため、各分掌と連携して自己管理手帳ガイダンスや学習法ガイダンスを行う。</p>	A A A	
	進路実現につながる課外授業及びVenturesセミナーの効果的な実施と模擬試験分析	<p>各教科との協議を定期的に行い、課外授業やVenturesセミナーの内容の更なる充実を図る。</p> <p>GTECの事前及び事後指導を積極的に行い、入試改革に対応できる英語運用能力を伸ばす。</p> <p>模擬試験結果の分析を充実させ、生徒の学力の伸長につながる助言、指導を行う。</p>	A A A	
	基本的生活習慣の確立	<p>挨拶(静止礼)、服装、清掃活動、時間厳守(5分前行動)についての重要性を理解させ、定着するまで粘り強く指導を行う。</p> <p>食事、睡眠等を適切に摂ることの大切さ、ストレスに対する対処法を理解させ、心身の健康の保持増進に努める。</p> <p>皆勤者120名以上を目指し、簡単に授業や学校を休まない雰囲気づくりに努める。</p>	A A B	
第1学年	自立的学習習慣の確立に向けた基礎・基本の定着	<p>挨拶、話を聞く姿勢等の授業規律を徹底させ、学習環境を整え、学習意欲を高めていき、課外授業の出席率は97%以上を目指す。</p> <p>課題等の提出の徹底を図るとともに、各教科と連携し、課題の質と量について調整しながら、能動的な学習に取り組めるようにする。</p> <p>自己の進路について、様々な場面で考えさせる機会を設け、目標を早期に決定できるように適切に支援を行う。</p>	A A B	<p>・欠席・遅刻の生徒が固定化されつつあるので、2年では、再度、休まないことの大切さを論じ、皆勤者を120名以上にしていきたい。</p> <p>・2年生として、先輩を支え、後輩を導き、学校の中核として行動できるよう、自主性を身に付けさせ、行動力を備えた生徒にしていきたい。</p> <p>・海外修学旅行を通して国際的な感覚も身に付けられるよう、事前・事後指導とともに計画的に取り組み、実り多いものにしていきたい。</p>
	『文武不岐』の精神に基づいた指導の実践とリーダーの育成	<p>積極的な生徒指導を実践し、自己肯定感を高めさせ、生徒の自主性を引き出させる。</p> <p>上級生を見て学ぶ姿勢を持たせ、具体的リーダー像についてのイメージを持たせる。</p>	A B A	

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
第2学年	基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の向上	規律ある生活リズムを確立させ、出席率98%以上・皆勤者120名以上を目指す。	B	A	・体調管理に注意させ、皆勤者120名以上を目指す。また風紀面等において、規範意識が低下しないように指導を徹底し、生徒がより主体的に行動できるように指導していきたい。 ・課外授業、日々の授業、家庭学習等の重要性を再度理解させ、十分な学習時間を確保し、進路実現のために質の高い学習に取り組ませる必要がある。 ・次年度は最上級生として、学校行事、生徒会活動、部活動等で先輩たちの模範となる行動が取れるように、意識を高めさせるとともに、自覚ある言動がとれるように促していきたい。
		挨拶(静止礼)、風紀面、5分前行動、清掃活動、集団生活マナーについての意義を理解させ、一人ひとりに考えさせた行動を実践させる。	A		
	生徒が規範意識を持ちつつ、自尊感情を高められるように、先を見据えた生徒指導の実践を行う。	A			
	学習習慣の確立とキャリア教育の充実による進路意識の向上	授業規律・学習環境作りの徹底を図り、授業に対する意識を高めさせる。	A	A	
		復習－授業－予習のサイクルを確立させ、家庭学習の充実を図る。	B		
	集団の一員としての自他を尊重する態度の育成とリーダーの育成	進路実現に向けて、進路目標を早期決定させるとともに、模試に対する意識付け・ガイダンス等の進路指導の充実を図る。	A	A	
自己管理能力の向上や学習時間を定着させるために、能率手帳スコアを活用させ、進路実現に繋げる。		A			
学校行事・生徒会活動・学年行事等において、生徒の活躍の場を設定し、達成感・充実感を経験させ、リーダーの育成に努める。		B			
第3学年	進路の自己実現、進路拡大を図る	部活動加入率80%以上を維持し、文武不岐の精神のもと、勉強・部活動ともに一体となった活動の充実を図る。	A	A	・進路指導に関しては、キャリア教育部と連携して時期に適った情報提供や個に対応する指導を行い、成果を得ることができた。課外の教科の担当数など生徒の実態に応じて検討する余地はある。 ・出席状況においては1ヶ年皆勤124名、3ヶ年皆勤85名と3ヶ年の生徒数が目標に届かなかったが、全体として着いた学校生活を送ることができた。 ・大運動会や三国が丘祭でも最上級生としてのあるべき姿を先輩たちに伝えることができた。また、挨拶や立ち振る舞いなど、社会人として必要な資質を身に付けさせることができた。
		進路目標の早期確定、進路拡大を図り、キャリアプランにつながる進路実現の意識を高揚させる。	A		
	進路実現のための具体的な学習計画を構築し、実行させ、自学習を充実させる。	B			
	自主自律を確立し、社会に貢献できる人間の育成を図る	校外模試を有効活用し、二者面談を複数回実施し、個に応じた進路指導を徹底させる。	A	A	
		進路希望達成に関する数値目標: 国公立大学30名以上、西南学院大学及び同程度以上の大学50名以上、福岡大学180名以上	B		
	小郡高校生最上級生としてあるべき資質、リーダー性を育成する	1年次からの目標である出席皆勤を目指す。1ヶ年皆勤120名以上、3ヶ年皆勤96名	B	A	
全教育活動の中で指導の徹底を図り、規範・秩序意識を確立させる。		A			
社会で通用する挨拶・礼儀・言葉使い・清掃活動を身に付けさせる。		A			
保健・環境	健康教育を邁進し、気力、体力のある生徒を育成する	最上級生としての意識の涵養を図り、集団内での責任感を育成する。	A	A	・保健室利用状況は例年と変わらず、生徒と養護教諭および担任間のコミュニケーションはよく取れていた。一方で、特定生徒の来室固定化への対応が課題である。 ・美化コンクールでは重点項目を設定し、保健・環境課職員で点検・評価を行い指導を徹底した。今後、生徒環境委員の活動活性化が課題である。 ・学校生活アンケートでの状況把握、心の相談での個別対応、教育相談委員会および生徒情報交換会での情報共有というサイクルが有効であった。更なる連携が課題である。
		学校生活で身に付けた資質を、人としてのあり方、生き方に繋げていく。	A		
	文武不岐の精神で学校行事、生徒会活動、部活動を通して活躍する場面を体験させ、先輩に伝統を繋げていく。	A			
	教育環境の整備に努める	保健室等においてコミュニケーションをはかり、健康的な生活のリズムの大切さを理解させ身に付けさせる。	A	A	
		生徒保健委員会の活性化を図り、健康な生活に関する啓発活動を行う。	A		
	教育相談活動を充実し、支援の必要のある生徒一人ひとりに適切に対応する	AED講習会等の研修を通して、危機管理能力を高めさせる。	A	A	
全職員で協力し、日常の清掃活動の徹底を図る。		A			
生徒環境委員会の活性化を図り、校内美化・整備への積極的な参加を図る。		B			
図書研修	指導力向上のための職員研修の充実を図る	美化コンクールを実施し、生徒の美化意識を高める。	A	A	・校内職員研修会については、各分掌と連携し充実した内容の研修を実施することができた。研究授業・公開授業ではアクティブラーニングやICT活用を取り入れた授業が行われ、今後も内容を充実させ継続していきたい。また、来年度は高大接続改革を視野に更なる授業改善に向けた研修を行っていく。 ・図書については、生徒主体の図書館便りの発行など、図書委員の活動が活性化しており、今後もこの状況を継続させたい。 ・人権・同和教育については、各学年事前の研修会を行う中で特設授業の内容が工夫改善されており、有意義な研修会も実施することができた。来年度も更なる内容の充実を図りたい。
		教育相談委員会を定期的に開催し、情報の共有に努め対応について協議し、常に支援できるようにする。	A		
	読書活動を通じて豊かな心や思考力・表現力を育成する	定期的な心の相談を実施し、必要に応じてケース会議を行い、生徒へ適切な支援ができるようにする。	A	A	
		拡大学年會、生徒情報交換会、教育相談委員会の有機的な関係性を構築し、活用する。	A		
	教育活動全体を通して、人権・同和教育を推進する	各分掌と連携し、本校の教育課題をテーマにした職員研修を企画・実施する。	A	A	
		研究授業や公開授業を充実させ、指導方法の工夫・改善を図る。	B		
研修情報の提供に努め、校外研修への積極的な参加を促す。		A			
企画	広報活動の充実	研究紀要を作成し、研修成果の共有を図る。	A	A	・ホームページについては、円滑な更新と効果的な活用を探していきたい。中学生進路相談事業では、今年度の成果を継続できるよう事務局校に協力していきたい。生徒主体の広報活動については是非形に残るものを作り上げたい。 ・行事等の記録については各分掌と協力して、確実に残せるよう体制を整えたい。基本情報については、書式をExcelに統一してさらに使いやすい形にしたい。
		「朝の10分間読書」を充実させ、読書習慣を確立させる。	A		
	計画的な年間行事の企画・他分掌との連携	「ビブリオメッセージ」を実施し、読書体験の共有化と表現力の向上を図る。	A	A	
		図書館だよりの発行および朝の放送等を利用して、図書館利用を促進し、継続的な読書指導を行う。	A		
	記録および基本情報の管理	各学年と協力し、人権・同和教育特設授業の内容を充実させる。	B	A	
		各分掌と連携し、生徒理解を深め、人権感覚を慣用するための研修を企画・実施する。	A		
校外の人権・同和教育研修への積極的な参加を呼びかける。		A			
情報	ICTを活用した授業を推進する	学校案内(パンフレット)、「小郡高校ニュース」「ホームページ」の内容をさらに充実させ、積極的に小郡高校の情報を発信する。	A	A	・ICTを用いた研究授業の実施については、次年度はより積極的に取り組んでいく。プロジェクトの使用計画も発表会が昨年度で終了し、新しい意識で積極的な取り組みが必要である。 ・ソフトウェアのインストールや機器接続への対応については情報課の先生方の協力のもと次年度は情報課で対応できる状況にしていきたい。 ・データの活用については今後も教務課と進路指導課と協力していきたい。
		事務局として「第8学区中学生進路相談事業」を成功させる。	A		
	校務用ネットワーク及びICT機器管理をする	生徒主体の広報活動を企画し、実施する。	B	A	
		各学年・各分掌と緊密な連絡調整を行い、綿密な計画の下、位置づけを明確にして、担当行事を円滑に実施する。	A		
	データの活用推進する	父母教師会・同窓会と緊密な連絡調整を行う。	A	A	
		年間行事を画像・映像により計画的に記録し、整理・活用する。	A		
基本情報(職員名票・住所録・緊急連絡表・行事予定等)の作成と管理を行う。		A			
ICTを用いた研究授業の実施を図る。	プロジェクト年間活用計画を立てる。	B	A		
	ICTを用いた研究授業の実施を図る。	A			
	情報セキュリティに関する啓発を行う。	A			
必要なソフトウェアのインストールや機器接続に対応する。	授業用パソコンやプロジェクトの使用簿記入の状況を改善する。	B	A		
	生徒データを蓄積して3年間活用する体制を強化する。	B			
	生徒データを進路指導や学習指導に活用できる資料とする。	A			
校務に利用しやすい様式でデータを活用できる資料とする。	校務に利用しやすい様式でデータを活用できる資料とする。	A	A		
	校務に利用しやすい様式でデータを活用できる資料とする。	A			